

はばたきプラン

平成 29 年度のキーワードは、「授業改善」。

教員一人ひとりが授業による小中学校の円滑なつながりを、より一層意識することによって、本市が小中一貫教育で目指す「学力・体力の向上」と「豊かな心の育成」の充実を図ります。

八潮
スタンダード
を活用した
授業改善

『八潮スタンダード』を全教科・領域で活用し、授業改善を推進するとともに児童生徒の一層の学力向上を目指します。

八潮スタンダード (学習の流れ)

つかむ・見通す

- 課題（めあて）を明確にする
 - ・前時との比較、既習事項の想起
 - ・身の回りの事象と関連付ける
- 学習意欲を喚起する
 - ・課題解決の必要感をもつ
 - 解決の見通しをもつ

授業の流れを、
4つの段階で
捉えています。

指導のポイント

- 短い時間で効率よく行う
- 前時のまとめを想起させる
- できる限り子どもたち自身に気づかせ、主体的な学びとなるように工夫する
- 情報の整理・理解をする
グラフ、データ、図表、心情、具体物、ICT など

考える

- 見通しに基づいて実行する
 - ・既習事項を活かして自分なりの方法で考える
 - ・様々な表現を工夫する
 - ・自分でじっくりと書く、読み込む
 - ・自分の考えを見直す

指導のポイント

- 考える視点を明示する
- 考える時間を確保する
- 解決につながる考え方や手立て
 - ・ヒントカード ・ワークシート
 - ・キーワード、キーセンテンス
 - ・具体物の提示 ・スキット など
- ※言葉を使って考えを表すように指導する

深める

- 対話的な学びで課題の解決を図る
 - ・自分の考えを説明する
 - ・友達の考えを説明する
- よりよい方法を考える
 - ・友達の考えを参考に自分の考えを手直しする
 - ・より簡潔で分かりやすい表現にする
- 発展課題に取り組む

指導のポイント

- 友達の考えを聞くときの留意点
 - ・自分の考えと比べて聞く
 - ・友達の意見と比べながら自分の意見を伝える
- 話し合いの視点の明確化を図る
 - 1 何のために（ねらい）
 - 2 何について
 - 3 方法、進め方は
 - 4 話し合ったことをどうするか
- ※ペア、グループから全体へとつなげる
指導者の働きかけ
- ※ペアやグループなどの形態を目的に応じて取り入れる

まとめる

- 課題（めあて）に沿ってふり返る
- 通用問題や評価問題で理解度確かめる
- 新たな課題を見出す

指導のポイント

- キーワード、公式などの提示
児童生徒の言葉を活かしてまとめる
- 適用問題や評価問題に取り組む
 - ・自分の達成度・理解度確かめる
 - ・定着を図る
- 家庭学習へつなげる
- 次時への意欲を喚起する

各段階における
指導のポイントが
示されています。

全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒の学力面の課題は、基礎的な学習内容を活用した思考力・判断力・表現力の向上であることが明らかになっています。こうした課題を解決するためには、教師主導の授業から脱却し、児童生徒の主体的な学習活動を充実させることが大切です。

こうしたことから、市内の教職員で構成する小中一貫教育推進検討部会「まなび（学力）部会」では、平成27年度から2年間をかけて、児童生徒の「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」に視点をあて、『八潮スタンダード』（目指すべき授業展開を示したモデル）を作成しました。

八潮スタンダードは、「つかむ・見通す」の場面で、めあて（課題）を明確にしてから見通しを持って学習活動に取り組み、次に、自分や友達と考えを深め、最後の「まとめる」の場面では、活動を振り返って新たな課題を見出す学習の流れになっています。このスタンダードを授業で活用することにより、「考え・試し・対話し・振り返る」といった、学習活動の一層の充実を目指します。

平成29年度は、『八潮スタンダード』を全校で全面実施するとともに、具体的な実践事例を作成し、市内全校で一層の活用・浸透を図っていきます。

ハンドブック
を活用した
授業改善



八幡中学校ブロックの『体力向上だより』

新体カテストの取組を授業改善へつなげ、
一層の体力向上を目指します。

「新体カテスト攻略ハンドブック」を全校で活用するとともに、各中学校ブロックで重点取組種目を決定し、授業改善を通して体力向上を図っていきます。

知・徳・体のバランスの取れた児童生徒を育成するため、平成28年度に小中一貫教育の重要な柱の1つとして「体力の向上」を位置付けました。さらに、全市的に児童生徒の体力向上を図るため、小中一貫教育推進検討部会に「まなび（体力）部会」を新設し、新体カテストに視点を当て、教員向けの「新体カテスト攻略ハンドブック」を作成しました。

平成29年度は、ハンドブックを全校で活用し、授業改善を通して体力向上を図っていきます。

新体カテスト 攻略ハンドブック

★ハンドブックの見方★

- ＜実施方法について＞ 測定方法についてまとめてあります。実施にあたっては、正しい測定を徹底します。
- ＜測定時のポイントについて＞ 児童・生徒の実態に応じて、測定時に活用します。
- ＜年間を通じた取組について＞ 時間を通じた取組の例です。重点種目を絞った取組が効果的です。

～目次～

- P1…新体カテスト実施にあたって
- P2…握力
- P3…上体起こし
- P4…長座体前屈
- P5…反復横とび
- P6…持久走、20mシャトルラン
- P7…50m走
- P8…立ち幅とび
- P9…ソフトボール投げ、ハンドボール投げ

ソフトボール投げ **ハンドボール投げ**

＜測定方法＞
①投球中または投球後、円を踏んだり、越したりしてはならない。
②記録はメートル単位とし、メートル未満は切り捨てる。
③2回実施してよい方の記録をとる。
【使用球】
小学校：ソフトボール1号球
中学校：ハンドボール2号球

測定時のポイント

- コーン等、目標となる目印を示す
1投目は標準値の場所に目標物を置く。2投目は1投目の記録に目標物を置き、それを越えるように声をかける。
- 高さの目標となる目印を示す
スランテープをはったり、目標物を指定したりして、投球角を意図させる。(45°)
- 正しいフォームで投げる
児童生徒の発達段階に応じた指導が必要となるが、最低限右記の内容は徹底する。

秘事前記

紙鉄砲を「イチニサン」のリズムで高めの位置で鳴らせるようにしておく記録が伸びる！

右利きの場合… 投げる方向に対して、90°に立つ。正面投げをさせない！

年間を通じた取組

- 体育朝会で全校に「正しい投動作」のポイントを周知する。(①ボールの持ち方 ②体の向き ③体重移動 ④体のひねり ⑤投球角)
- 低学年(中学1年生)を対象とした「投力向上教室」を実施する。
- 投力向上の場を設置する。(ドッジボールコート、パトンスロー、握り方指示等)
- 紙鉄砲の生活化を図る。(紙のサイズを変えることで、難易度を変えることができる。)
- 体育授業で、補強運動(腹筋、腕立て、馬跳び等)に取り組む。
- 業前の「シャトル」ランを実践する。(シャトルを投げて、走る。拾って投げる。走る…)
- 長期休業中の課題に、「キャッチボール」や「紙鉄砲」等の体力向上を設ける。

全学級で「いじめ撲滅」に向けた授業実践
を継続します。

「八潮市みんながいじめをなくすための条例」(通称：いじめゼロ条例)を基にした授業実践を中核に、児童生徒の「豊かな心の育成」を目指します。



「いじめゼロ条例」を基にした大原小学校での授業

いじめゼロ
に向けた
授業実践

小中一貫教育導入当初に喫緊の課題となっていた児童生徒の「不登校」や「非行問題行動」は、近年、大きく改善しました。今後は、不登校や非行問題行動の数値的な減少だけでなく、授業を中核にして、児童生徒の心の豊かさを追求する取組が一層求められています。

このような中、平成27年9月に「八潮市みんながいじめをなくすための条例」が制定されたことを機に、平成28年度には、小中一貫教育推進検討部会「こころ部会」において授業モデル案を作成し、市内全学級で「いじめ撲滅」に向けた授業を行いました。

平成29年度も「いじめ撲滅」に向けた授業実践を全学級で継続していきます。

いじめを防止するための授業モデル案(低学年)

題材目「いじめについて考える」

(1)本時のねらい
○いじめについて考え、適切な判断や行動ができる態度を育てる。
○「八潮市みんながいじめをなくすための条例」を周知し、行動目標を決め、実践的な態度を育てる。

(2)学習過程

学習活動・内容	指導上の留意点
1 各組で実施した、いじめに関するアンケートの結果を知る。	アンケートの結果を通して、児童の実態をつかませる。
2 本時の課題を確認する。	
3 いじめと関係する場面について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。 ○「八潮市みんながいじめをなくすための条例」について、具体的な場面を挙げて考える。	場面設定を確認しとらえさせる。 場面内容が理解できていないときは、教師が補助説明等をしてイメージできるようにする。 個人で考えをまとめ、グループで話し合いをすすめる。 必要に応じて、話し合いの中で、ロールプレイをさせて、適切な行動について考える。
4 いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。 ○「八潮市みんながいじめをなくすための条例」について、具体的な場面を挙げて考える。	場面設定を確認しとらえさせる。 場面内容が理解できていないときは、教師が補助説明等をしてイメージできるようにする。 個人で考えをまとめ、グループで話し合いをすすめる。 必要に応じて、話し合いの中で、ロールプレイをさせて、適切な行動について考える。
5 いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。 ○「八潮市みんながいじめをなくすための条例」について、具体的な場面を挙げて考える。	場面設定を確認しとらえさせる。 場面内容が理解できていないときは、教師が補助説明等をしてイメージできるようにする。 個人で考えをまとめ、グループで話し合いをすすめる。 必要に応じて、話し合いの中で、ロールプレイをさせて、適切な行動について考える。
6 いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。 ○「八潮市みんながいじめをなくすための条例」について、具体的な場面を挙げて考える。	場面設定を確認しとらえさせる。 場面内容が理解できていないときは、教師が補助説明等をしてイメージできるようにする。 個人で考えをまとめ、グループで話し合いをすすめる。 必要に応じて、話し合いの中で、ロールプレイをさせて、適切な行動について考える。

いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。

いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。

いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。

いじめを防止するための授業モデル案(低学年)について、どのような判断をすればよいか考え、話し合う。

いじめを防止するための授業モデル案
発達段階に応じ、小学校低・中・高学年、
中学校版を作成し、活用しています。

八潮市のいじめゼロに向けた取組を紹介します。

- 条例の制定に伴い、9月を「八潮市いじめ防止強化月間(八潮市いじめゼロ強化月間)」としました。期間中は、市内小中学校にのぼり旗の設置や市庁舎にいじめゼロ強化月間の懸垂幕や市役所ロビーに特設ブースを設置し、啓発に努めました。
- いじめゼロ条例を周知するため、リーフレットやクリアファイルを作成し、市内児童生徒へ配布しました。
- 夜市や市民まつりでブースを設置し、来場者へ啓発用ティッシュやリーフレットを配布し、広く周知しました。



八幡中学校ブロック研究発表会

＜研究主題＞
学力・体力の向上と豊かな心を育成する
小中一貫教育の推進
～子どもたちの未来を拓く「はつらつ」プラン
(施設分離型として)～

平成28年11月22日

八幡小学校(公開授業)、柳之宮小学校(公開授業)
八幡中学校(公開授業、全体会)



目指す児童生徒像

自ら学び、関わり、
思いやりを持って
互いに高め合う児童生徒

平成28年11月22日に八幡中学校ブロック(八幡中学校、八幡小学校、柳之宮小学校)において、研究発表会が行われました。午前中は八幡小学校と柳之宮小学校で公開授業、午後は八幡中学校で公開授業と全体会が行われました。

八幡中学校ブロックでは、『学力・体力の向上』と『豊かな心の育成』のために、「学力の向上」では、八潮スタンダードに沿った授業を基盤とする、思考力、表現力の育成、「体力の向上」では、運動の生活化を図り、進んで運動する児童生徒の育成に取り組んできました。また、「豊かな心の育成」では、道徳教育の重点化による、道徳実践力のある児童生徒の育成を図ってきました。

当日は、これまでの実践・研究が報告され、「八潮スタンダード」に沿った授業が公開されたほか、3校合同の家庭教育学級や学校保健委員会が開催されました。

また、八幡小学校の5年生では、道徳の授業と連動し、インターネットについて学ぶためのY-net サポーターズ(4面で紹介)による授業や命の大切さを知るため、直井亜紀さん(助産師)による「いのちの授業」が行われました。

ブロックからの研究報告の後、濱本一共栄大学教育学部教授に『これからの学校教育に期待すること』について、ご講演いただきました。



「いのちの授業」

成果

- ① 教員
 - ・小中の垣根を超えた教員間の交流を行うことにより、お互いの校種のよさを取り入れ、9年間を見通した指導が意識されるようになった。
 - ② 児童生徒
 - ・小中の様々な交流を行うことにより、小6児童は中学校進学へ向けての不安の解消につながり、中1生徒は中学校でスムーズに学習活動や生活を送ることができ、中1ギャップの解消につながった。
- 課題
- ・「八潮スタンダード」を活用し、9年間を系統だてた授業展開の効果検証とその共有。

Y-net サポーターズ

私たちは八潮市の子供たちと保護者が正しく、安全にネットを利用することができるよう、サポートをおこなう埼玉県ネットアドバイザーの有志6人です！

Y-net サポーターズとは？

「デジタルネイティブ世代の子育てを経験し、インターネットが子どもたちに及ぼす影響の大きさを実感したからこそ、進化し続けるネット社会の中で生きていく力を育てたい。」

そんな願いから Y-net サポーターズは結成されました。



どんな活動をしているの？

本市の児童生徒は、スマートフォンの所持率が高く、使用時間も長いという実態が全国調査(学校における携帯電話等の取扱いに関する調査)から明らかになっています。これらのことから、児童生徒にインターネット (SNS を含む) の利用について、正しい知識や判断力を育成するために、市内の小中学校で安全なネット利用についての授業や講演を行っています。

その1

講座「ネットの達人への道」

※講座内容は一例です。

小学校3・4年生	身近にあるネット機器 ～ネットデビューは突然に
小学校5・6年生	ネットの中の光と陰 ～インターネットの特性
中学校1・2・3年生	主体的に考える ～IT 社会を生きるために

その2

小中学校での連携授業や講座、家庭教育学級「親の学習」などでのワークショップ

八幡中学校ブロックの研究発表会では、八幡小学校で2校時に道徳の授業を行い、引き続き3校時に Y-net サポーターズが「インターネットについて学ぼう」の授業を行いました。道徳の授業と連動させることにより、学習効果の一層の高まりを目指しているほか、市内中学校では、インターネットを正しく、賢く、安全に使えるようになるためのディベートを取り入れたワークショップなども行っています。



また、保護者を対象とした親の学習では、我が子のインターネットの利用内容や利用時間等の使い方について考え、家庭でのルールや親も知識を身につけることの大切さについて話し合いを行っています。

その3

体験してみましよう！

長方形の紙を準備し、次の①～③の文章の通りに行ってください。

- ①紙を半分に折って
- ②右端を一か所ちぎって
- ③同じことを、あと2回繰り返す

右端の上？下？

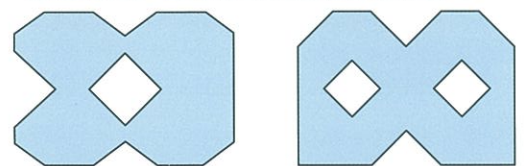
横に折るの？
縦に折るの？

完成！！



あれ？
みんなと違う形みたい…。

皆さんは、どんな形になりましたか？



情報の送信者側の伝えたい事と受信者側の受け取り方・感じ方の違いや、文字や文面だけから判断することの怖さや危険性について、実感していただけたのではないのでしょうか。

その4

インターネットを正しく、安全に使いましよう

インターネットは世界と結ばれ、正しく使うことができれば大変便利なツールです。反面、長時間利用による依存や SNS などでのコミュニケーショントラブルなど、様々な課題もあります。ぜひ、ご家庭でもインターネットの利用やルールについて考えてみましょう。

問い合わせ

埼玉県八潮市中央一丁目2番地5 電話048-996-2111(内線398)
八潮市教育委員会 学校教育部 小中一貫教育推進室